

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	11	歴史・文化の継承
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	豊岡 勝敏 教育部長	
評価シート作成者	大澤 浩 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
地域に受け継がれている歴史や文化に誇りを持ち、次世代に伝えていくため、文化財の保護に取り組むとともに、市民が歴史や文化に理解を深め、身近に感じることができるように、文化財の幅広い活用を図る。	地域に受け継がれている歴史や文化に親しむこと、そして、それを次世代に継承することは、地域づくりにとって大切なことであるが、市民の関心はあまり高まっていないと捉えている。企画展や各イベントについて、更に創意工夫、改善し、意識啓発を図る必要がある。 また、博物館等施設については、市民が関心を持ち訪れてみたいと思うような魅力的な施設であり続けるよう、計画的に施設の修繕・改修・整備を行っていく必要がある。 今後も、市民が地域の歴史や文化に興味を持ち、文化財の大切さを意識させ、施設の来館者の増加にもつながるよう、ソフト・ハード両面から、施策展開に努めたい。

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 文化財の保護と活用については、文化財の指定により保護を行い、青少年郷土芸能フェスティバル等の開催を支援し、活用を図り、無形民俗文化財保持団体の一部では後継者が増加した。また、埋蔵文化財については、適切な調査・記録と保存・展示を行った。 博物館等施設の整備・充実については、各館とも事業の企画や案内周知に積極的に取り組み、9施設中、6施設で入館者が前年度より増加した。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	地域に受け継がれている歴史や文化への関心が深まる。
文化財	地域に受け継がれている歴史や文化が保護、継承される。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価				
指標①	文化財数(国・県・市指定)	単 位	目指す方向	進捗の評価				
		件	↗	○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)				
当初値(H25)	270	R1目標値	276	R6目標値	281			○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み) 指定の文化財は、前年度に比べ増減はなかった。既に指定となっている文化財等は存続できた。
指標②	まちづくり評価アンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	進捗の評価				
		%	↗	○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)				
当初値(H25)	58.6	R1目標値	61.8	R6目標値	65.0			まちづくりアンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合が、1.6%減少した。 平成30年度に、国は明治・戊辰150年記念事業を推進し、大々的な情報発信が行われ、博物館施設等では関連事業を計画し推進したことで、市民の歴史への関心が高まり、同年度の実績値が増加した。 令和元年度は、市民に歴史・文化財を活用した事業や学習機会を提供したが、前年度の国の記念事業の関連事業の終了が背景にあり、実績値が減少したものと考えられる。 今後、成果を向上させるためには、情報発信の方法を工夫するほか、市民のニーズをどう捉えて事業の企画に反映させていくかが目標達成に向けた課題と考える。

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
11-1 文化財の保護と活用	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の指定候補案件の調査を進めたほか、補助金の支援等により文化財の保護が図られた。 有形文化財等において、周辺の環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなっているものもある。 無形民俗文化財は、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、民俗芸能保持団体の特性に応じた対策が必要となっている。 埋蔵文化財の出土資料は、増え続け、従来の施設には収まりきれず、仮設の施設にも仮置きしている状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財等の保存・修繕のため、必要に応じて、町内会等地元住民への協力要請を行う。 盛岡市歴史的風致維持向上計画等に基づき、補助制度を活用しながら、文化財の保護と活用に取り組む。 民俗芸能保持団体の後継者不足について、盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と連携しながら支援策を講じる。また、地域における行事等を捉えて、発表の機会を確保し、民俗芸能の周知を図る。 埋蔵文化財発掘の出土資料を、活用頻度等により再配置を行うとともに、空き教室等を利用するなど、収蔵場所の確保を図る。 未指定の文化財も含め、文化財をまちづくりに生かすつ、地域社会との協働でその承継に取り組む必要があるため、文化財保存活用地域計画を策定する。
11-2 博物館等施設の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は即位の礼など時事に合わせた展示や子供向けの講座などのイベントを工夫し、9施設のうち6施設の入館者が増加した。 各施設とも施設・設備の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が増え、来館者の受入れ環境が改善できない箇所がある。 入館者からは、魅力的でわかりやすい展示説明等をはじめ、使いやすい快適な施設環境の維持・整備が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種企画展をはじめ、魅力的で話題性を捉えたイベントの開催のほか、各施設の情報案内・広報の強化を図るとともに、施設外へ出向く「出前講座」の充実に取り組む。 学校や他団体のイベント等と連携するなど、機会を捉えて幅広くPRを行い、利用促進を図る。 玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館の複合施設の整備を進める。 施設や設備の修繕については、優先順位を検討し、計画的に対応していく。 文化財保存活用地域計画において、博物館等施設における歴史資料の保存・活用のあり方を検討する。

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	12	芸術文化の振興
施策主管部等	交流推進部	
評価責任者	伊瀬谷 渉 交流推進部長	
評価シート作成者	赤坂 國彦 交流推進部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もが芸術文化に親しみ、豊かな生活が送れるように、優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民の自主的、創造的な芸術文化活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、盛岡市芸術文化創造都市宣言を行い、新しく策定した盛岡市芸術文化推進計画を広報等により広く周知したほか、第1回盛岡国際俳句大会の開催により、市民に対し盛岡市を芸術文化が生きる魅力あるまちとしてアピールすることができ、その結果、芸術文化を身近に感じ親しむと回答した市民の割合も増加したものと考えられる。 今後においても、市民が喜びや感動、心の潤いや安らぎを享受しながら暮らすことができる環境の構築に向けて、活動団体の有機的なつながりの支援を行うとともに、老朽化した施設の更新を計画的に進めるなど、芸術文化活動への積極的な支援を進める。

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 市民にとって芸術文化をより身近なものとするを旨とし、盛岡市芸術文化推進指針に基づき、盛岡市芸術文化推進計画を策定し、市の芸術文化振興の基本的な方向性を具体的な取組内容としてまとめた。 盛岡の魅力を再発見する取組として、令和元年8月に第1回盛岡国際俳句大会を開催し、国内外に向けた魅力発信に努めた。 盛岡芸術協会が主催する盛岡芸術祭を共催し、市民の優れた芸術文化活動の成果を発表する機会と広く市民に鑑賞の機会を提供するための支援を行った。 文化振興事業団と連携し、鑑賞機会や芸術文化体験の充実を努めたほか、文化施設利用者へのサービス向上のため、施設の修繕及び舞台照明設備の更新を行った。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民、芸術・文化に関わる人・団体	芸術・文化活動に参加できる機会が増えること。
芸術文化施設	芸術文化活動の場として、より活用が促される。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価		実績値の推移				進捗の評価																							
指標①	単 位	目指す方向				指標②	単 位	目指す方向																									
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合	%	↗																															
当初値 (H25) 41.6	R1目標値 45.0	R6目標値 50.0				当初値 (H25)	R1目標値	R6目標値																									
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (指標①)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>当初値 (H25)</td><td>41.6</td></tr> <tr><td>H27</td><td>40.3</td></tr> <tr><td>H28</td><td>40.9</td></tr> <tr><td>H29</td><td>40.6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>42.2</td></tr> <tr><td>R1</td><td>44.7</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td></td></tr> </tbody> </table>			年度	実績値 (%)	当初値 (H25)	41.6	H27	40.3	H28	40.9	H29	40.6	H30	42.2	R1	44.7	R2		R3		R4		R5		R6		<p>○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)</p> <p>まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合は微増であり、芸術文化を身近に感じ親しむ市民が増加傾向にある。</p> <p>芸術文化推進計画の初年度にあたる令和元年度は、盛岡市芸術文化創造都市宣言を行い、新しく策定した計画を広報等により広く周知したほか、第1回盛岡国際俳句大会を開催し、市民に対し盛岡市を芸術文化が生きる魅力あるまちとしてアピールすることができた。</p>						
年度	実績値 (%)																																
当初値 (H25)	41.6																																
H27	40.3																																
H28	40.9																																
H29	40.6																																
H30	42.2																																
R1	44.7																																
R2																																	
R3																																	
R4																																	
R5																																	
R6																																	

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
12-1 芸術・文化活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡芸術協会をはじめ、芸術活動団体が主催する催しに共催・後援するなどして活動支援の充実を図ることができた。 芸術文化団体の活動支援については団体によってニーズが多様であることから、内容を適切に把握し、社会情勢を踏まえた上で支援策を講じる必要がある。 より多くの市民に広く芸術文化に親しんでもらうため、限られた市民や団体だけでなく誰もが気軽に芸術文化に触れ体験できる取組を充実する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者や芸術文化関係団体との意見交換を踏まえて策定した盛岡市芸術文化推進計画について、適切に関係団体等のニーズを把握しながら、着実に計画を推進する。 特に、芸術文化ポータルサイトを先行して構築し、芸術文化イベント及び各種助成事業等の情報提供に努め、芸術文化に興味のある方々の連携を支援する。また、個人や団体の活動を配信することによる発表・鑑賞機会の創出を支援する。
12-2 文化施設の整備と活用	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に伴い、安全・快適で機能的な活動環境を提供するため、適正な管理運営と計画的な施設設備の修繕や更新に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の自主的・創造的な芸術文化活動を支える既存の施設や付帯設備については、引き続き計画的・効率的な修繕が必要であることから、アセット計画に基づいた修繕を進めるとともに、舞台装置等についても計画的な修繕を進める。 また、ふるさと納税などの民間資金の活用により、修繕に必要な財源の確保に努める。

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	13	スポーツの推進
施策主管部等	交流推進部	
評価責任者	伊瀬谷 渉 交流推進部長	
評価シート作成者	赤坂 國彦 交流推進部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もがスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるように、スポーツをする環境やスポーツを支える環境づくりを進めるとともに、スポーツを通じたまちの魅力の創出などに取り組む。	市民が継続してスポーツを楽しむための利用環境の向上を図るため、施設の修繕を計画的に行うとともに、(公財)盛岡市スポーツ協会を中心とした各競技団体や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等と連携を図りながら市民がスポーツを行う機会の提供を進めていく必要がある。 また、希望郷いわて国体・いわて大会の遺産(レガシー)を次世代に継承するため、ラグビーワールドカップ2019™のナミビアの公認チームキャンプやラグビー日本代表合宿受入れ等の実績を生かし、1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたカナダを相手国とするホストタウン事業を推進することで継続してスポーツの振興に取り組む。

施策の概要

主な取組内容
<p>・全ての市民がスポーツに参画する機会の提供を目指し、(公財)盛岡市スポーツ協会を中心とした各種競技団体やスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等と連携し各種事業に継続的に取り組むとともに、第1回のいわて盛岡シティマラソンを開催した。</p> <p>・市民が継続してスポーツを楽しめるよう、老朽化した施設の大規模改修を計画的に行い、利用者の利用環境の向上を図った。</p> <p>・東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業としてラグビーカナダ女子セブンズの合宿を受入れ、日本代表候補との合同合宿やエキシビションマッチを行うとともに、ラグビーワールドカップ2019™におけるナミビアの公認チームキャンプの受入れを行った。</p>

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	スポーツへの興味、関心が高まり、多くの市民がスポーツに参加している。
生涯スポーツに関わる団体・指導者	市民がスポーツに関わる機会を多く提供している。
スポーツ・レクリエーション施設	適切に配置され、充実した機能を備えている。
スポーツ団体等	団体の役割を明確にし、市民のスポーツ活動が活発に展開される環境を作る。
プロスポーツ団体	優勝するなど、市民のスポーツへの関心が高まるような成績を残す。
県内外のスポーツ競技団体	スポーツツーリズムとして本市に興味を持ち、国際大会、全国大会を開催する。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	まちづくり評価アンケート調査「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
		%	↗		
当初値(H25)	31.1	R1目標値	56.0	R6目標値	71.0
進捗の評価(3段階):◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)					

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今後の方向性
13-1	ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> 市の事業数が平成28年度は希望郷いわて国体、希望郷いわて大会の開催により増加した。 令和元年度の市の事業数は30年度からさらに増加し、中間年の元年度の目標を大きく上回っている。 各種スポーツ大会やスポーツ教室等に保護者も一緒に参加できるスポーツ機会の提供に努めた。 事業内容が類似・重複していないか検討する必要がある。 事業参加者は子供や高齢者が多いが、働く世代の参加者が少ない傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会で生まれた有形・無形の様々な遺産(レガシー)を発展させ、着実に次世代に引き継ぐ取組が必要であり、市や(公財)盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが行っている各種スポーツ大会やスポーツ教室の周知促進を図る。 各種スポーツ団体や健康づくりに関連する担当部署等と協議を行いながら、スポーツに親しむ機会の少ない人が気軽にスポーツに取り組めるよう努める。
13-2	スポーツ施設の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> 施設照明のLED化を進めたが、利用者が快適に利用できるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を行うとともに、不具合備品や競技用具の更新のほか、施設を計画的に修繕する必要がある。 令和元年度の施設利用者は増加傾向にあった。 令和2年3月に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から施設利用を制限したことにより利用者が激減し結果として令和元年度の施設利用者総数は前年度より減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者増加につながる自主事業の拡大について指定管理者に要請する。 公共施設保有最適化・長寿命化計画の着実な推進を図る。 施設の維持管理に係る費用の確保について検討する。
13-3	スポーツ団体等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> (公財)盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の事業数が微増となった。 総合型地域スポーツクラブの活動拠点支援を行ったが、引き続き各競技団体や総合型地域スポーツクラブとの連携が必要である。 総合型地域スポーツクラブは平成29年度に1団体増加したところであるが、それ以降の増加は見られず目標達成が難しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> (公財)盛岡市スポーツ協会や各競技団体や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等と連携を図りながら市民の競技力の向上やスポーツを通じた健康づくりの機会の提供を進めていく必要がある。 総合型地域スポーツクラブの活動状況について継続して周知を図りながら、人材確保に努めるとともに、総合型地域スポーツクラブの地域性等を生かした健康づくり習慣化推進事業を委託し、市民のスポーツ活動の機会の提供に努めることとする。 総合型地域スポーツクラブの創設に向けた研修会の開催や設立時における国等の補助制度等の周知を図ることとする。
13-4	プロスポーツ等との連携	<ul style="list-style-type: none"> プロスポーツチームの会員数がbリーグは増加しているがJリーグは減少傾向にあるため、特にJリーグの会員数を増やすための支援(PR等)が必要である。 プロスポーツチームが市のスポーツ推進事業を受託した実績がないが、施設使用料の全額免除を行うことにより無料試合を実施し、集客への支援に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習環境の確保、ホームゲームの開催、広報活動に係る支援を継続する。 プロスポーツ団体を受託者としたスポーツ推進事業及びプロスポーツ支援事業を検討する。
13-5	希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産の継承	<ul style="list-style-type: none"> ホストタウン事業としてラグビーカナダ女子セブンズの合宿の受入れを行い、その中で日本代表候補との合同合宿やエキシビションマッチを行い、700人を超える市民等が来場した。 東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019™では、選手と市民の交流に関して大会優先であるため、市民の参加や交流には工夫を要する場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前キャンプの受入れを始めとするホストタウン事業に際し市民交流や周知啓発の充実を図ることで、東京2020オリンピック・パラリンピックの感動を共有し、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産(レガシー)を未来へ継承していく。

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	14	「盛岡ブランド」の展開
施策主管部等	市長公室	
評価責任者	古館 和好 市長公室長	
評価シート作成者	太田 真 市長公室次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
<p>盛岡が住み続けたいまち、住んでみたいまち、訪ねてみたいまちとなるため、盛岡ならではの魅力や価値である「盛岡ブランド」を市民と共に磨き、育み、都市ブランドの確立を目指す。さらに、効果的に市内外に発信することにより「盛岡ブランド」を展開する。</p>	<p>観光客の入込数は増加し、魅力度における盛岡市の順位も向上して目標値を達成している一方、市民の関心が低下してしている。事業効果を検証しながら情報発信の手法を構築する必要がある。 シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成を図るために、昨年度策定した「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づく事業を着実に推進する必要がある。</p>

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の総合学習で盛岡ブランドを取り上げ、子どもたちの郷土愛の醸成を図った。 ・盛岡ブランドフォーラムやもりおか暮らし物語表彰により、市民への普及啓発を行った。 ・首都圏の若者世代を中心とした「対象者」に、盛岡の価値や魅力を伝えるプロモーション素材を作成し、それを活用したプロモーション活動を行った。 ・地域おこし協力隊の活動により、東京を始めとした外国人観光客に人気のある都市におけるPR活動や、SNSを活用した情報発信の仕掛け作り、ウェブへの記事の提供などを行った。 ・関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトを立ち上げ、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成など、多角的なアプローチで情報発信やネットワーク形成を行った。 ・令和2年度から6年度を計画期間とする「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」を策定した。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	盛岡への誇りや愛着を抱く。
市民以外の人	盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになる。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価			
指標①	まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	◎ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)			
当初値(H25)	78.0	R1目標値	80.0	R6目標値	82.0		
				<p>広報もりおかの特集ページ制作にあたり、市内デザイン会社の協力を受け、若年層向けの紙面作りに努めたことにより効果的な情報発信を行うことが出来たほか、ブランドフォーラム・もりおか映画祭と企画を連動させることで、フォーラムの集客につながった。 子どもたちに向けた郷土愛の醸成として、緑が丘小学校の総合学習に協力し、毎年連携する関係性を構築できたほか、活動を周知するチラシを小学校に配布したことで、新規の学校での周知を行うことができた。 取組の成果が指標の上昇に結び付かなかった。 もりおか暮らし物語読本の刊行にあたり地域への周知が不足し、執筆希望者とのマッチングが行えなかったことから発刊できなかった。</p>			
指標②	地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」	単 位 位	目指す方向 ↗	◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)			
当初値(H26)	58	R1目標値	50	R6目標値	50		
				<p>外国人を中心に盛岡の認知度を向上させることを目的に、英語版フォトブックを企画制作し、外国人観光客の割合が高い地域のゲストハウスに配架することにより、効果的にプロモーション活動を行うことができた。 「地域おこし協力隊」の活動により、首都圏における写真展開催や、SNSを活用した情報発信、ウェブへの記事の提供などを行い、県外に向けた発信力を強化することが出来た。 関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトを立ち上げ、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成など、多角的なアプローチで情報発信やネットワーク形成を行った。 それぞれの活動に対し、訴求する相手方(ターゲット)を設定したことで、効果的な訴求につながった。</p>			
指標③	観光客入込数	単 位 万人回	目指す方向 ↗	◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)			
当初値(H25)	472	R1目標値	500	R6目標値	520		
				<p>若者に人気の高いインフルエンサーを活用して、首都圏の若者をターゲットとした観光情報を発信するなど、それぞれの活動に対し、訴求する相手方(ターゲット)を設定したことで、効果的な情報発信につながった。 民間事業者などと連携し、「盛岡という星で」プロジェクトの一環として、ターゲット等プロモーションの方向性を構築したうえで移住体験ツアーを実施することで、市への来訪のきっかけ作りを行うことができた。 地元団体、国土交通省、市による舟運実行委員会を組織し、舟運実現に向けた組織強化が図られたことにより、木造船「もりおか丸」を活用したフェスタや、小学生を対象とした体験運航等5回の社会実験を実施し、マスコミ等にも取り上げられ、舟運の魅力を市内外にPRできた。</p>			
指標④		単 位	目指す方向				
当初値(H25)		R1目標値		R6目標値			

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
14-1 市民・事業者との意識共有	<ul style="list-style-type: none"> ・広報もりおかの情報発信と、ブランドフォーラムのテーマを結びつけることで参加者数が増加するなど、個別の事業に関連性を持たせることにより、多くの市民への普及啓発を行うことが出来た。 ・個別の取組の成果が、指標の上昇に繋がらなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市内住民に向けたインナープロモーションを行うための手法の検討・構築を行う。 ・子どもたちに向けた郷土愛の醸成を図るため、小学校との連携を継続的に行えるよう、関係の構築に努める。 ・盛岡ブランドフォーラムの実施時期や内容、周知方法を見直し、より集客できるよう努める。
14-2 情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人に向けた、英語版フォトブックによるプロモーション活動や、首都圏の若者に向けたSNS等による情報発信など、訴求する相手方(ターゲット)によって手法を使い分け、効果的な情報発信を行うことが出来た。 ・広告宣伝や周知イベント等の回数や参加人数が限られており、大規模なプロモーションに繋がっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市外住民に向けたアウトタープロモーションを行うための手法の検討・構築を行う。 ・訴求する相手方(ターゲット)の設定や、ターゲットに適した情報発信手法など、マーケティング手法を用いながら効果的なプロモーションの実施に努める。

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	15	良好な景観の形成
施策主管部等	都市整備部	
評価責任者	高濱 康亘 都市整備部長	
評価シート作成者	千田 敏 都市整備部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
<p>市民と共に、自然環境と歴史的環境とが調和した盛岡らしい魅力ある景観を保持するなど、良好な景観の形成を図る。</p>	<p>都市景観シンポジウム、都市景観賞等を開催し都市景観に関する意識の向上を図っているが、成果指標である、まちづくり評価アンケートの多くが前年度より低下している。引き続き都市景観シンポジウム、都市景観賞の内容の充実化等について検討するとともに、成果指標低下の要因の把握に努める必要がある。 景観重要建造物等については、老朽化に対応するために計画的な改修を進める必要があり、その先鞭をつける紺屋町番屋改修では、利活用のあり方も指標向上に一定の役割を果たすことが期待される。 また、屋外広告物については、令和3年度施行の条例改正と併せて、あらためて広く市民等への制度周知に努める必要がある。</p>

施策の概要

主な取組内容
<p>・都市景観シンポジウム、都市景観賞などを通し市民への景観に対する意識の向上を図り、景観計画区域内行為届の審査・指導により良好な景観形成となるよう誘導し、併せて景観計画の周知を行った。 ・景観重要建造物、景観重要樹木等の維持保全を図り、市所有の景観重要建造物等を公開した。 ・屋外広告物の許可により、景観計画との整合と公衆への危害防止を図りながら、官民が連携する啓発イベントを行い、屋外広告物制度の周知を図った。</p>

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
街並み、山並み	優れた景観が守られる。 地域にあった景観になる。
市民・建築関係者	景観に対する意識が高まる。 地域の景観に沿った建物等を建設する。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標	内容	単位	目指す方向		
指標①	まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	<p>△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)</p> <p>市所有の景観重要建造物等の公開により景観意識の向上を図っているが、老朽化が進み、計画的な改善が必要となってきた。また、建設費用の高騰などを背景に特徴的なデザインを取り入れるのではなく、画一的な建物の建設が増える傾向が見られることも、誇れる市街地の景観があるとの評価につながらない一因と考えられる。</p>	
当初値(H25)	70.1	R1目標値	74.7	R6目標値	79.3
指標②	まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	<p>△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)</p> <p>田園・丘陵地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であるが、建設可能な新たな建造物等が建設される際においても景観に配慮するよう誘導しながら、今ある景観の維持、保全を図ることが必要である。</p>	
当初値(H25)	59.6	R1目標値	69.4	R6目標値	79.3
指標③	まちづくり評価アンケート調査「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	<p>△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)</p> <p>山間地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であるが、建設可能な新たな建造物等が建設される際においても景観に配慮するよう誘導しながら、今ある景観の維持、保全を図ることが必要である。</p>	
当初値(H25)	69.9	R1目標値	74.6	R6目標値	79.3
指標④	まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示されているはり紙や看板など)は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民の割合	%	↗	<p>△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)</p> <p>官民が連携する啓発イベントを通じて屋外広告物制度について周知啓発を行ったが、まだ制度が広く浸透しているとは言えない状況であり、さらに屋外広告物の制度の周知を徹底し、適正な屋外広告物の設置を進める必要がある。</p>	
当初値(H25)	28.1	R1目標値	31.1	R6目標値	33.6
指標⑤	まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民の割合	%	↘	<p>△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)</p> <p>改善したい景観が市街地、田園・丘陵地、山間地のいずれであるかを把握する必要があるが、市街地においては、景観に対する配慮が不足している建設等や、景観重要建造物等の老朽化による腐朽や解体により、次世代に継承すべき魅力ある盛岡固有の景観が失われつつあることも一因と考えられる。</p>	
当初値(H25)	20.6	R1目標値	17.4	R6目標値	14.8
指標⑥					
当初値(H25)		R1目標値		R6目標値	

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今後の方向性
15-1	景観保存対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市所有の景観重要建造物を公開することにより、景観重要建造物の認識を高めた。 ・景観重要樹木の樹勢診断により、樹木の状態を把握することで適切な維持保全につながっている。 ・歴史的街並み整備事業(修景補助)1件実施し、歴史的街並みの修景を図った。 ・景観重要建造物の改修が進まず老朽化が進むことが、まちづくり評価アンケート調査において誇れる景観があると回答した割合が年々減少している要因のひとつと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観重要樹木について、より一層の樹勢診断等の活用を図り、枯渇のないよう維持保全に努める。 ・歴史的町並み整備事業の周知を図り、鉾屋町の歴史的街並みの修景を進める。 ・市所有の景観重要建造物の維持保全のため、計画的な改修を図る。
15-2	良好な景観形成の誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・都市景観シンポジウム、都市景観賞等により市民の都市景観に関する意識の向上を図った。 ・官民が連携する啓発イベントを行い、屋外広告物制度について周知を図ったが、広く浸透しているとはいえない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民がより一層盛岡の景観に興味を持ってもらえるよう、都市景観シンポジウムや都市景観賞の内容の充実を図る。 ・屋外広告物の制度の周知の方法を検討し、屋外広告物の適正化に継続的に取り組む。

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	16	計画的な土地利用の推進
施策主管部等	都市整備部	
評価責任者	高濱 康亘 都市整備部長	
評価シート作成者	千田 敏 都市整備部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
地域の特性をいかし、機能的で魅力的な都市を形成するため、自然環境の保全と人々の営みとの調和を考慮しながら、コンパクトで効率的な市街地を形成するなど、計画的で適正な土地利用を推進する。	成果指標による進捗評価は良好に推移しているが、令和元年度に策定した立地適正化計画の確実な運用や法律改正を踏まえた見直しを進めるほか、社会情勢の変化等や市民意見を踏まえた都市計画マスタープランの見直しが急務である。 また、このマスタープラン見直しと合わせて、農村部コミュニティ維持等の課題に対応する市街化調整区域における土地利用について、関係部署と連携しながら検討を進める必要がある。

施策の概要

主な取組内容
<p>・都市計画法に基づく区域区分等の見直しに向けた都市計画基礎調査や開発許可制度、国土利用計画法に基づく土地取引事後届出制度、国土調査法に基づく地籍調査などにより、国土利用計画盛岡市計画や都市計画マスタープランに基づく適正な土地利用が図られた。</p>

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
都市計画区域、農用地区域、森林区域	森林や農地が自然環境や生産の場として保全される。 無秩序な市街化が防止され市街地の密度が維持される。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合 (市域における都市計画区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)	<p>関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を図ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>
当初値(H25)	50.3	R1目標値	50.3		
指標②	農用地として保全し土地利用する割合 (市域における農用地区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)	<p>関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を図ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>
当初値(H25)	8.4	R1目標値	8.4		
<p>※当初値はH26の速報値</p>					
指標③	森林として保全し土地利用する割合 (市域における森林区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)	<p>関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を図ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>
当初値(H25)	73.2	R1目標値	73.2		
指標④		単 位	目指す方向		
当初値(H25)		R1目標値		R6目標値	

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
16-1 土地利用に関する計画の策定・見直し	<ul style="list-style-type: none"> 目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 将来における都市部及び農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。 将来における森林資源の保全維持管理を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 近年の社会情勢の変化や各種関連計画の策定等を踏まえ、市の都市計画の方針を定めている盛岡市都市計画マスタープランの全体構想の見直しのほか、都市再生特別措置法の改正を踏まえた盛岡市立地適正化計画の見直しを進める。 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として保全・活用され、市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で一体的に土地利用を進める。
16-2 土地利用の管理・指導	<ul style="list-style-type: none"> 市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。 開発許可及び建築許可の件数が多く、相談内容が多岐に及び時間を要するため予約制を導入したことにより、相談者の待ち時間の解消が図られた。 審査基準の緩和に関する相談や調査、資料収集が必要で、複雑な相談内容への対応に時間を要している。 	<ul style="list-style-type: none"> より効率的な窓口対応を図るため、開発建築相談の予約制を推進し、説明資料等の工夫等を検討する。 市街化調整区域における開発許可基準については、国の動向や他都市の事例、岩手県との協議等を参考に地域の実情等に応じた運用について、継続して検討する。